

## 令和7年度第2回史跡めぐり

### 「菱川師宣記念館・大福寺崖観音・笠森観音」

令和7年10月10日（金）実施

#### 1. 「菱川師宣記念館」



台風22号が発生し影響があるか心配していましたが、当日は晴れて幸先がいいと思い出発しましたが、アクアラインの海ほたるの手前で事故があり大渋滞。約1時間遅れたため予定変更し、急遽「菱川師宣記念館」を先に見学することに変更しました。

菱川師宣は、安房国保田の出身で縫箔刺繍業を営む父菱川吉左衛門と母オタマの間に、7人兄弟の第4子長男として誕生しました。俗称は吉兵衛、晩年には剃髪して友竹と号しました。生年は不祥ですが、寛永年間の中頃（1630年頃）と推定されています。幼い頃より絵を描くのが好きだった師宣は、家業を手伝い、刺繍の下絵などを描くかたわら、漢画や狩野派、土佐派などの諸流派に接し、独学で画技を磨きました。

その後、江戸に出た師宣は、まず版本の版下絵師として活躍。師宣は、江戸の庶民を題材とした風俗画を描き、その情報発信にも着目していました。肉筆画においても、歌舞伎や吉原遊里の風俗をこまやかに、色鮮やかに描き、「見返り美人図」に見られるような独自の女性美を追求し、「浮世」と呼ばれた当時の世相にマッチした新しい絵画様式を確立しました。

現在大河ドラマ「べらぼう」の蔦屋重三郎、歌麿の時代より約100年前になります。

今から60年前の切手収集が流行っていた時に「見返り美人」と「月に雁」が高かったのを覚えています。



当日は、千葉県松戸市出身の田辺知治展を実施していました。写実的で繊細な画風の作品が展示されていました。

## 2. 「昼食」



保田にある「番屋」で食事。アサリご飯、刺身、アジフライ、くじらのたれなどを頂きました。



### 3. 「大福寺崖観音」



「大福寺崖観音」は境内の船形山の中腹に浮かぶ朱塗りの観音堂が「崖の観音」と呼ばれています。大福寺崖観音は見学当日はお堂の補修工事を実施しておりお堂までの階段も一直線の急な階段しか利用できませんでした。またお堂も工事のネットが施されていたため眺望が悪かったので残念でした。

この観音堂の本尊は、十一面観世音菩薩で、養老元年（717年）に行基（668～749年）が東国行脚の折に神人の霊を受け、地元漁民の海上安全と豊漁を祈願して、山の岩肌の自然石に十一面観世音菩薩を彫刻したといわれる摩崖仏です。

現在のお堂は、関東大震災により倒壊後大正14年、本堂は昭和元年に建てられ、その後の海風の影響により劣化したので平成28年7月に大改修を実施し完成した。

お堂のある崖は、チバニアンとして有名になったミルフィーユのような地層が見られます。

## 4. 「笠森観音」



「笠森観音」は、延暦3年（784）伝教大師最澄上人が楠の霊木で十一面観世音菩薩を刻み山上に安置し、開基されたと伝えられています。

観音堂は、長元元年（1028）後一条天皇の勅願により建立された。

その建築様式は、61本の柱で支えられた日本唯一の「四方懸造」として建立されその後焼失し、現在の建物は解体修理の際発見された墨書銘から1579年（天正7年）から1597年（慶長2年）の間の再建とされている。観音堂の75段の階段を上った回廊からは、四季それぞれに美しい房総の山々が眼下に眺められ、その景観は一見に価する。

明治41年（1908）「国宝」に、その後昭和25年（1950）「文化財保護法」の制定により「国指定重要文化財」となっています。

また、笠森寺周辺の森林は、延暦年間の笠森寺草創当時より禁伐林として保護されてきたと伝えられる暖帯林の残存林であり、「県立笠森鶴舞自然公園」に指定されている。特に観音山は昭和45年（1970）「国指定天然記念物笠森自然林」として保護されています。

そして笠森寺は「坂東三十三観音札所」の第三十一番札所として古来より巡礼の霊場となっています。